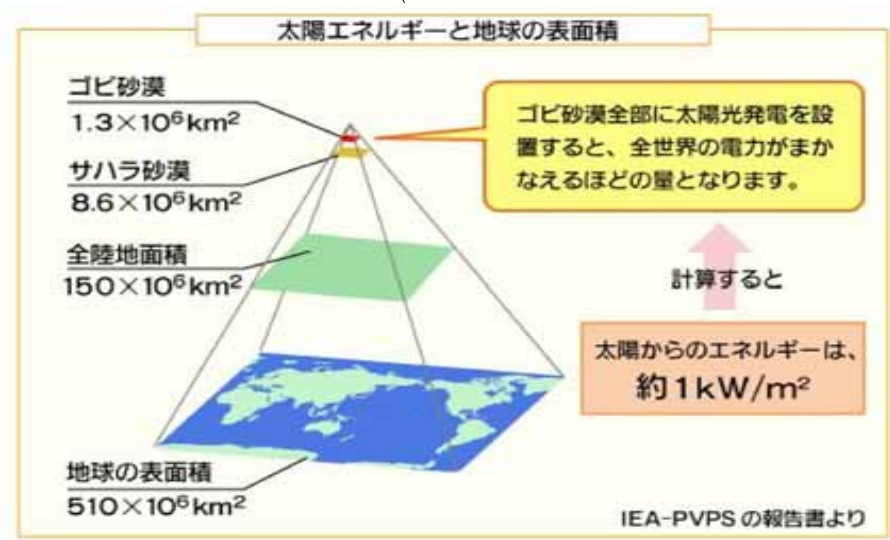
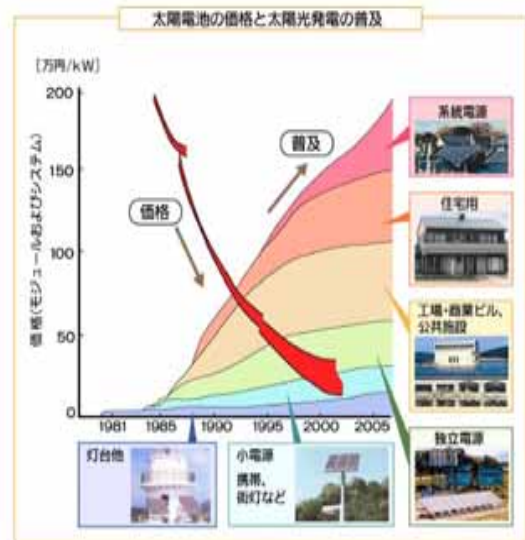
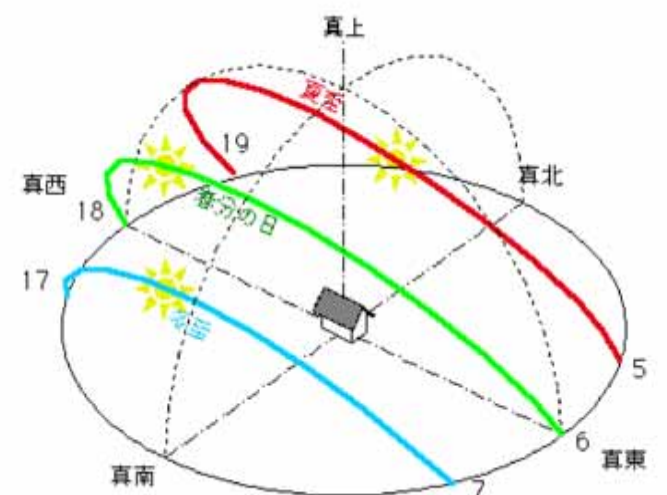
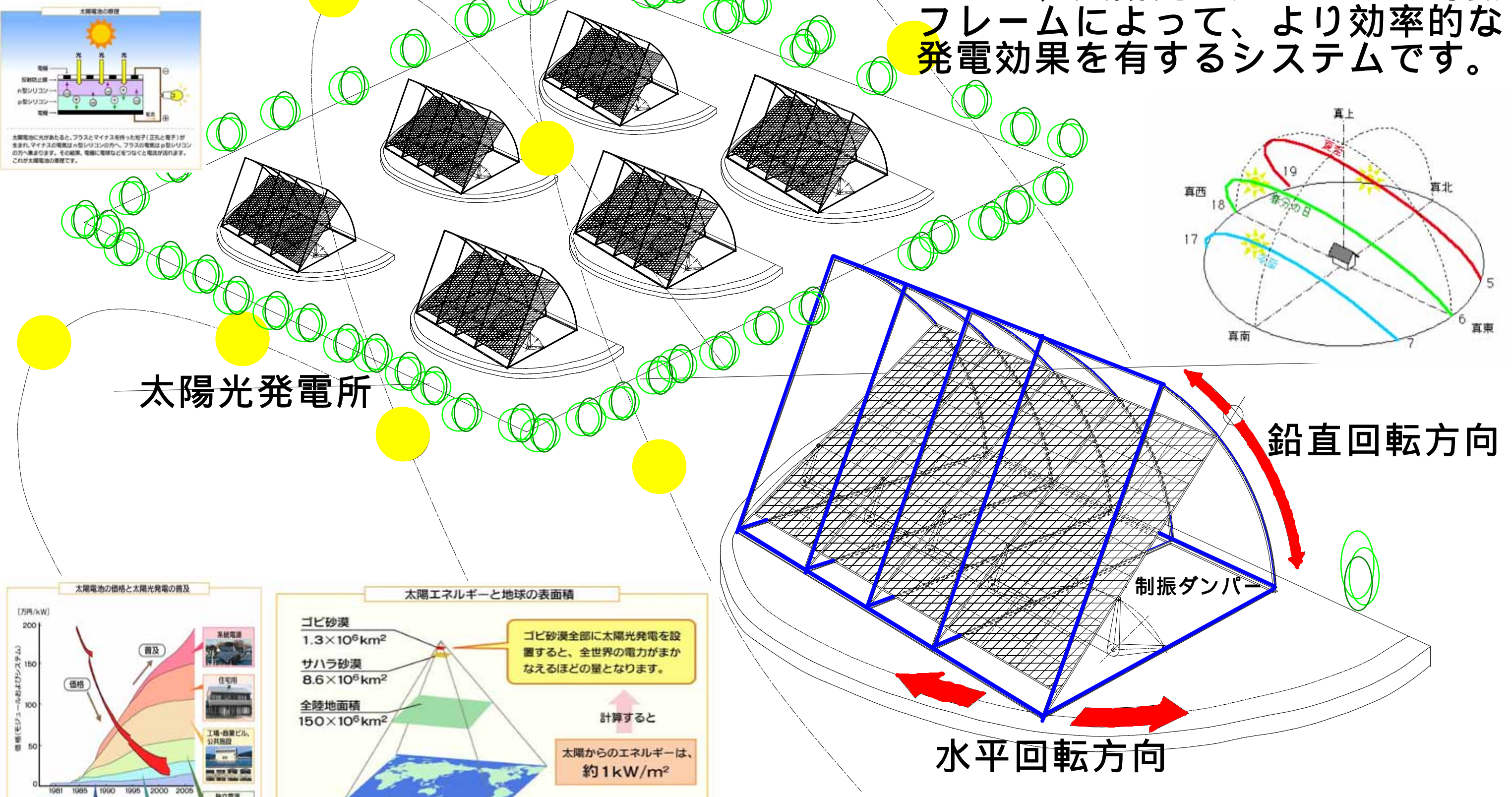
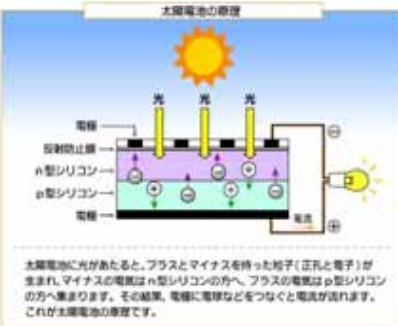
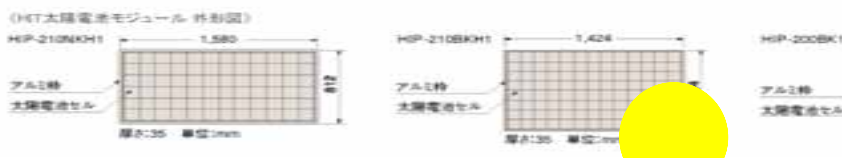


# 太陽光追従ソーラーシステム ひまわり

これは、太陽光を追いかける可動フレームによって、より効率的な発電効果を有するシステムです。

HPT太陽電池モジュール	HBP-210BK1	HBP-210BK1
公称最大出力	210W	210W
公称最大出力動作電圧	41.2V	39.7V
公称最大出力動作電流	5.08A	5.30A
公称開放電圧	50.9V	52.0V
公称短絡電流	5.57A	5.79A
質量	15.0kg	15.5kg
モジュール寸法	1,580mm × 812mm × 35mm	1,424mm × 894mm × 35mm

上記の数値は、JIS C 8918で規定するAM1.5、放射照度1000W/m<sup>2</sup>、モジュール温度25℃での値です。

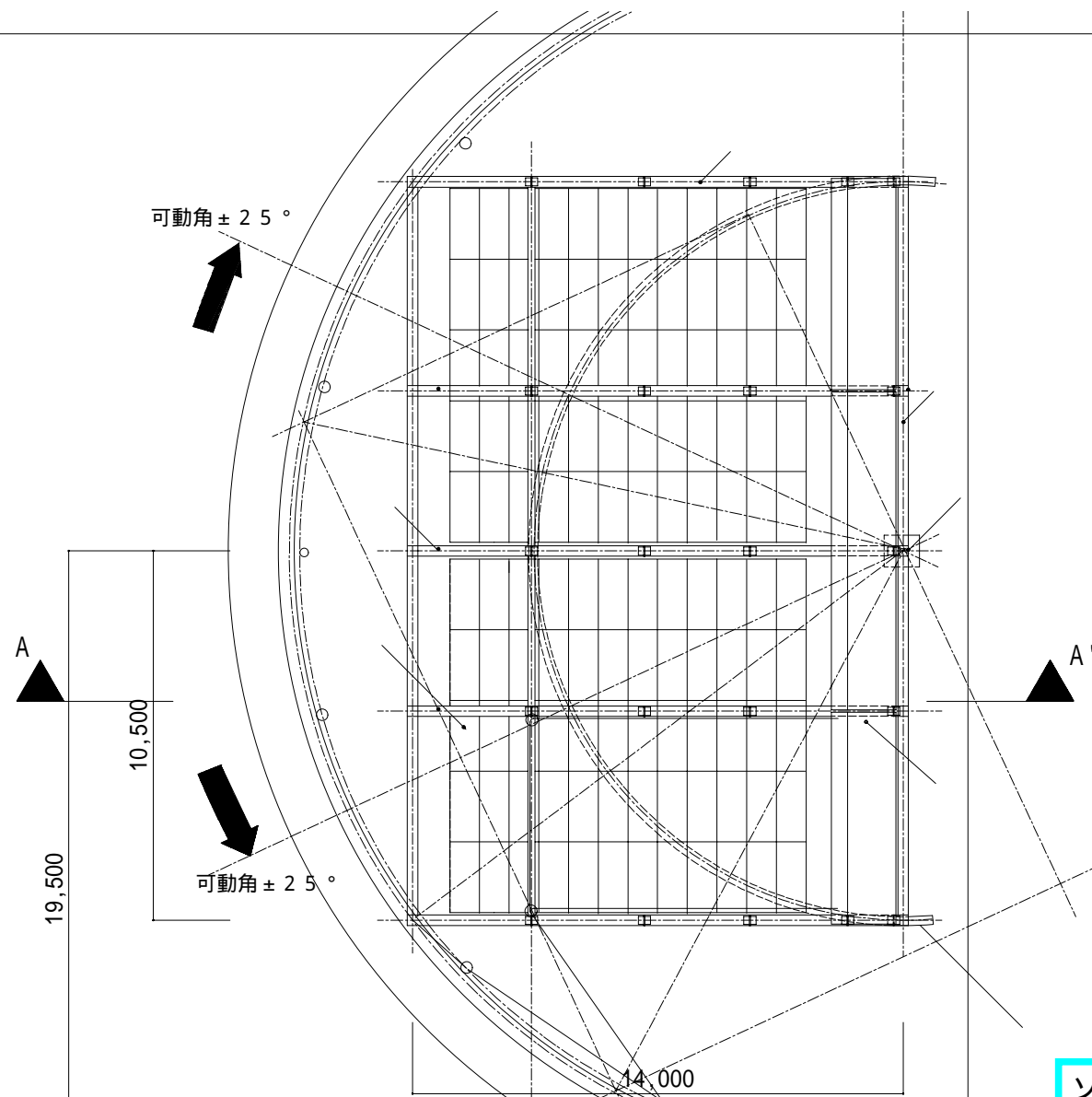


水平回転方向

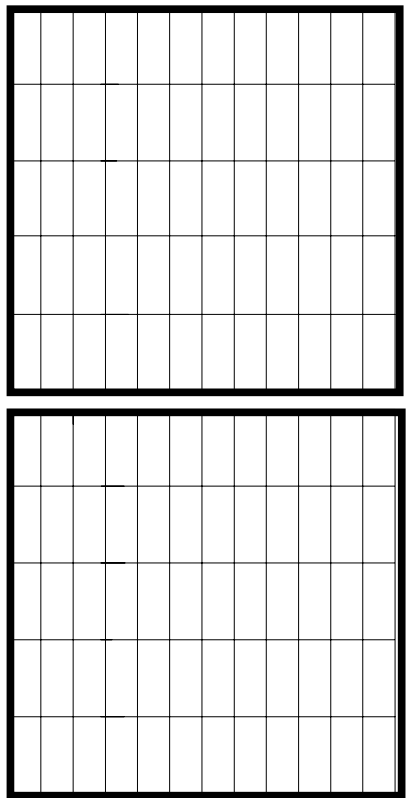
鉛直回転方向

制振ダンパー

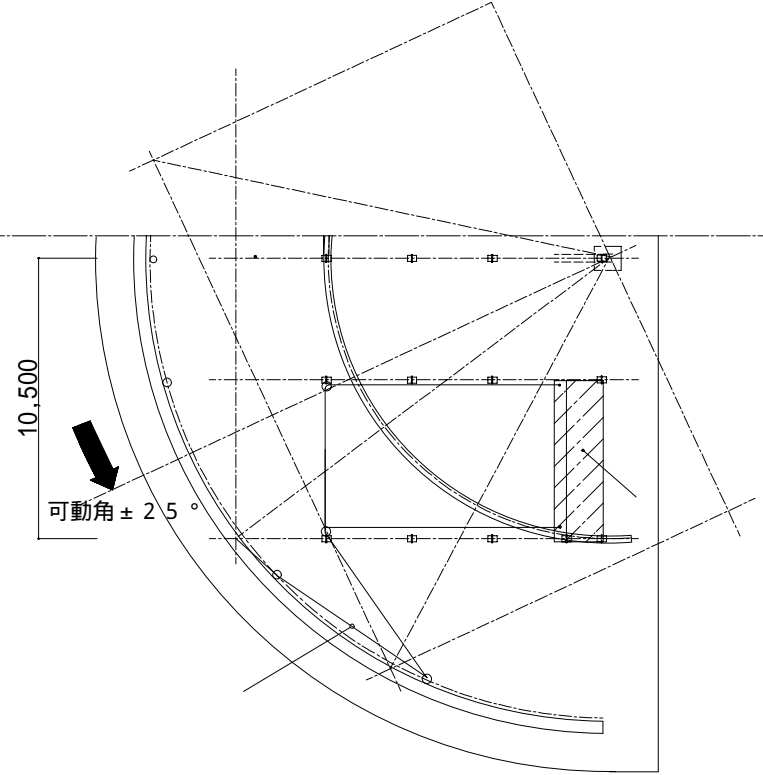
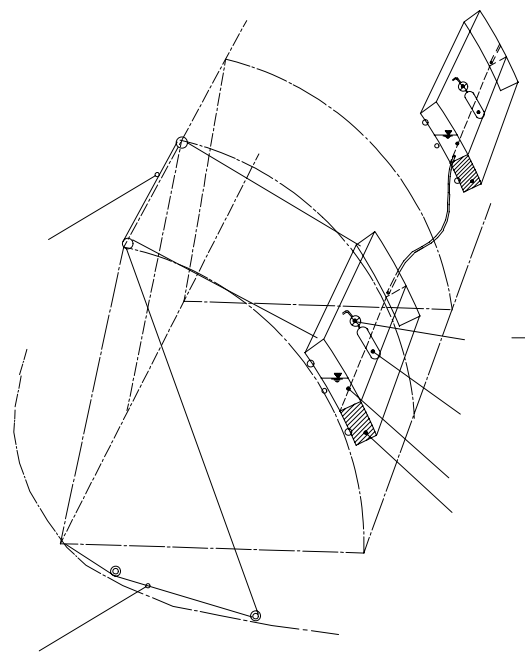
太陽光発電所



平面図 (S-1/200)



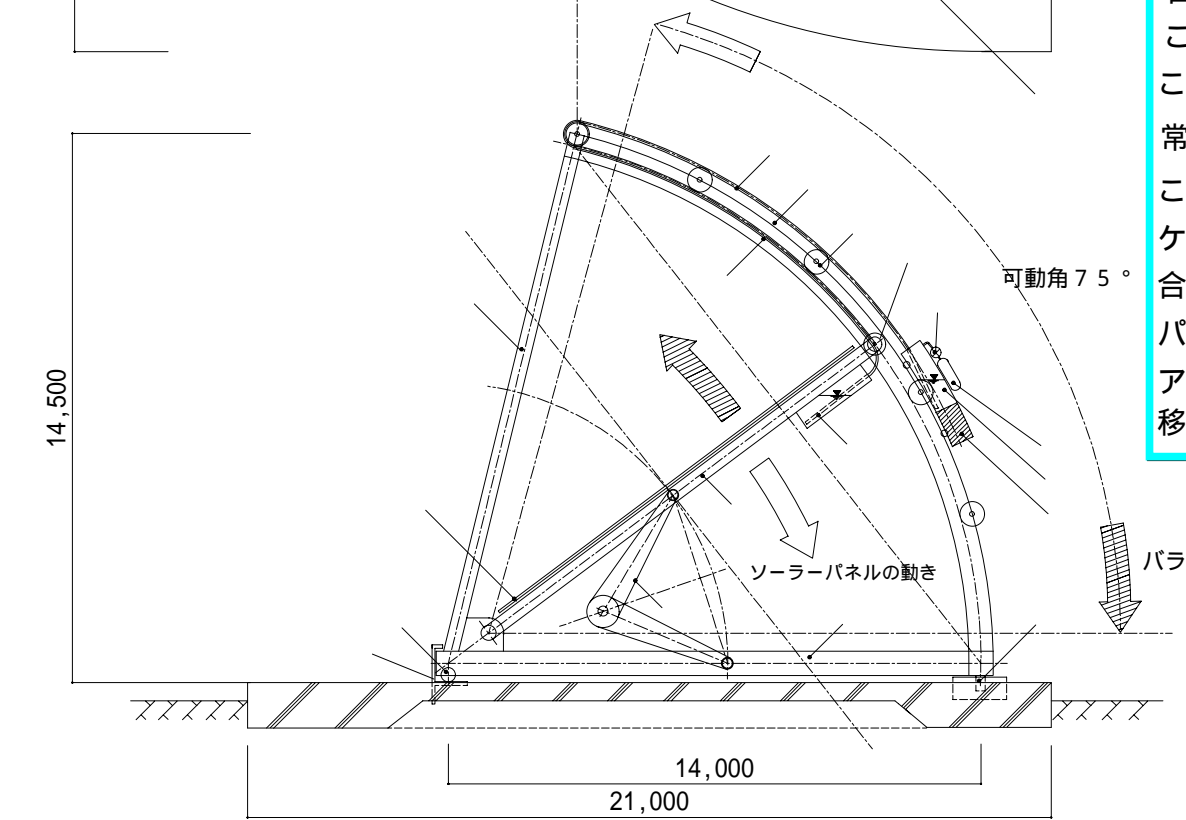
ソーラパネル配置平面図



**ソーラパネル鉛直回転システム概要図**  
 複数のソーラパネルを張り付けたフレームの下端に回転ピンを、上部先端にスライド式ローラを取り付けることによって、上下方向に回転可能とする。この操作によって、太陽高度の変化による太陽光にも常に直行する位置を保持させる。この機構は、鋼製バルンサー とパネルフレーム先端をケーブルで接続しパネルフレームが落下する力と釣り合わせる。更に左図の変調水圧水槽 をバルンサー側とパネル側に取り付け送水管で連結する。アキュムレータの空気圧調整により相互の水槽に水を移動させることでバランスを崩し上下回転をさせる。

**水平回転システム概要図**  
 張り付けフレーム の下端四角に支承ローラ を付け、右下部フレーム中央に回転ピン を付ける。この機構により水平回転が可能となる。この操作によって、1日の太陽軌道による太陽光方向にも常に直行する位置を保持させる。この機構は、鋼製バルンサー と支承ローラ部をケーブルで接続しパネルフレームを回転する力を与える。これを逆回転方向にも対象に取り付ける。更に上図の変調水圧水槽 をバルンサー上部に取り付ける。これら対象に付けた2つの水槽を送水管で連結する。アキュムレータの空気圧調整により相互の水槽に水を移動させることでバランスを崩し水平に回転をさせる。

**鉛直振動制御ダンパー (ディスク式粘性ダンパー) 概要**  
 2重管の間に粘性流体を介したもので、外筒と内筒に接続アームを取り付けたもの。筒は長辺方向に配置し、接続アームは、パネルフレームに取り付ける。



A - A 断面図 (S-1/200)

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>ソーラパネル</li> <li>ソーラパネル取り付けフレーム</li> <li>鉛直フレーム</li> <li>水平フレーム</li> <li>円曲フレーム</li> <li>回転可動支承ローラ (ロック機能付き)</li> <li>回転可動中心ピン</li> <li>ケーブルガイドローラ</li> <li>可撓送水管</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>牽引ケーブル</li> <li>ウエイト水槽</li> <li>変調水圧水槽</li> <li>鋼製バルンサー</li> <li>空圧調整アキュムレーター</li> <li>空圧切り替え電磁弁</li> <li>ディスク式粘性ダンパー</li> <li>回転レール</li> <li>ロック機能付きベアリング</li> </ul> |
|--|--|